

JIMGAnews

第38号

JIMGA 平成29年賀詞交歓会を開催



間会長挨拶

1月11日、経団連会館でJIMGA平成29年賀詞交歓会を開催しました。経済産業省、厚生労働省、高压ガス保安協会、日本医療ガス学会など各種関連団体から来賓を迎え、報道関係者を含めた約450人が参集して盛大に行われました。

冒頭、間会長が挨拶に立ち「昨年はまさかと思うことがたくさん起きた」として英国のEU離脱や米国のトランプ大統領の誕生、また国内では熊本地震や多発した台風などの自然災害をあげました。更に続発した放置容器等の破裂事故について触れ、RFタグ

やJIMGA-EDI等による容器管理の徹底および行政より発行されている容器管理指針の活用を呼びかけたうえで、「今後も保安水準の維持・向上と事故撲滅を図っていく」と決意を述べました。

続いて来賓挨拶では、経済産業省糟谷製造産業局長がFIT制度の賦課金減免について、省エネの努力を前提として8割の減免を維持したが、今後の省エネについても支援していく方針と共に、安全性を確認した原発の再稼働を進める考えが示されました。さらに「世界経済が内向き志向を強める中でも、日本は自由で開かれた経済を守り抜く必要がある」との見解と共に、成長と分配の持続的成長モデルを提示し働き方改革に取り組んで行くことが示されました。

また厚生労働省神田医政局長は、熊本地震の際の在宅酸素使用者の安否確認におけるJIMGA会員の対応への感謝を述べたうえで、「今後も大きな需要が予想される在宅酸素療法の機器の供給・保守管理、また災害時の自治体との災害時医療ガス供給協定の締結等に関して、継続的な取り組みをお願いしたい」と呼びかけました。

高压ガス保安協会市川会長は、事故の際の迅速かつ体系的な対応、原因究明の原動力となっているのは「法律上の義務ではなく、絶対に事故を起こしたくないという事業者の決意」であるとして、安全確保のためより一層の努力をすると述べました。

今井副会長は乾杯挨拶で、今年は産業界にも気合が入っているようだとの感触を述べ、更に当日の出席予定者数についても「最近にない高い数字」として今年の業界の先行きに期待を示しました。最後は鈴木副会長の中締めで盛況裡に閉会しました。

会長、副会長、来賓、中締め等の挨拶は3月発行の産業ガスレポート春号にも掲載します。

(広報委員会事務局 石原 智子)



会場の様子

会員紹介 — 豊田ガスセンター株式会社 —

沿革

昭和の高度成長時期を迎え、ものづくり西三河の発展に伴い、増大する機械金属加工・各種部品産業への需要や地域の工場群建設需要を見越し、昭和44年10月、当社は十合熔材(株) (平成7年に(株)十合に改称)、刈谷酸素(株)、新東熔材ガス(株) (昭和61年に(株)新東に改称)、日本酸素(株)の4社出資により設立され、豊田市内を中心とする各産業企業工場への高圧ガス供給拠点として産声をあげました。以後、主に自動車産業の発展と共に、一貫したリテール各種高圧ガス供給に努め、現在では豊田のみならず、みよし・刈谷・安城・岡崎・西尾・碧南・蒲郡・豊川・豊橋・田原と周辺広域地域へとお届けしております。

当社は愛知県内でも大きな豊田市の南西部、自動車産業等向けの工場群が点在する内陸の農耕丘陵地域に位置しております。周囲には水田や畑・茶畑なども多いのですが、東名・新東名高速や伊勢湾岸自動車道などの主要道路があり、一般幹線道路には工場間を行き来する物流大型トラック輸送の往来も多く、物流拠点地域にもなっています。

当社は愛知県内でも大きな豊田市の南西部、自動車産業等向けの工場群が点在する内陸の農耕丘陵地域に位置しております。周囲には水田や畑・茶畑なども多いのですが、東名・新東名高速や伊勢湾岸自動車道などの主要道路があり、一般幹線道路には工場間を行き来する物流大型トラック輸送の往来も多く、物流拠点地域にもなっています。

業務内容とその特色

当社では、出資各社を窓口とする各種高圧ガス供給を行っており、シリンダーおよびLGC容器への高圧ガス充填製造、各種高圧ガスや溶接機材などの関連商品の貯蔵を行い、各社配送車両の受け入れを行う一方、自社所有車両および人員によるエンドユーザーへの配送も手掛けています。

この地域の特色は、なんといっても自動車産業等を中心とする各種製造業全般の裾野の広さにあります。各種製造業の下支えをする工業ガス類の用途の豊かさ広さを実感するだけでなく、製造現場へのリテール供給による需要動向変化の速さにも、目をみはるものがあります。中でも、LGCによるガス供給量の多さは当社最大の特色です。

当社を拠点とする顧客専用LGC容器の常時稼働本数は数百本を超えており、これらの計画的な活用や配送体制の高効率化が必須のため、容器管理の強化をめざし、単なる販売管理から一歩踏み込んだRFタグを用いたビッグデータの蓄積やその有効活用検討を開始しました。



新設建屋設備等全景



センター入り口



LGC容器へのRFタグ装着

防災近況

昨年7月に長年使用してきた事務所を40数年ぶりに更新し、高圧ガス貯蔵設備や関連商品倉庫を増床しました。これらを含め、予想される大型地域災害への対応能力の強化に努め、その立地を生かして、もしもの際の地域復興にも備えたいと思っております。

(豊田ガスセンター株式会社 常務取締役工場長 石田 恒美)

南アフリカ(SABS)でのISO会議について

2017年2月5日～10日、南アフリカ、プレトリア（SABS：South African Bureau of Standards）で開催されたISO TC58 SC-4会議に日本代表（JISCからの派遣）として出席しました。SABSは南アフリカ国内の基準を作成している国家機関で約200名の方が働いています。

最初の3日間はガスシリンダーバンドル（日本国内ではカードルとも呼ばれています）の設計、製造や定期検査方法に関する基準案が議論され、各国から出されたコメントに対する修正案が作成されました。まだ最終決定ではありませんが、AE*1手法を導入についても意見交換され、今後基準化が検討される可能性があります。

4日目の全体会議では、SC-4で現在活動している8つのWGの1年間の活動報告が行われました。その中で、国連基準に引用するISO基準として3基準が承認されました。

最終日は、シリンダーの再検査に関して、水圧による方法とUT*2による方法の基準改定案が検討されました。今回の委員会では、基準改定案に対する各国からのコメントが137件提出されており、休憩なしで議論を行いました。全てのコメントに対して検討する時間がなく、4月19日～20日にかけて再度検討されることになりました。現在、日本国内でもシリンダー再検査へのUTやAEによる検査導入に関して、経済産業省の委託で日本非破壊検査協会が検討委員会を立ち上げています。JIMGAからも検討委員会に委員として参加していますので、興味深い内容でした。次回のISO会議は、来年2月12日からスウェーデンで開催される予定です。



SC-4会議出席者とSABSオフィスビル外観

*1：AE（Acoustic Emission：アコースティックエミッション）とは、材料が変形あるいは破壊する際に発生する弾性波です。AEは主に超音波領域（数10kHz～数MHz）の高い周波数で、このAEを材料表面に固定した圧電素子センサによって電気信号に変換して検出し、非破壊的に評価する手法をAE法と呼びます。AEは材料が破壊に至る前の変形や微小破壊に伴って発生するので、AEの発生挙動で、材料や構造物の欠陥や破壊を発見・予知することができます。

*2：UT（Ultrasonic TestingまたはUltrasonic Inspection：超音波探傷検査）とは、非破壊検査の一種で、超音波探傷器より高電圧の電気パルスを超音波探触子の振動子に送信させ、超音波のパルス信号として、機械的な振動を金属材料等の表面や内部に伝播させることにより、音響的に不連続な部分からの反射信号や反射強度、伝搬時間などにより、材料内部のきずや長さ、形状などを非破壊で評価し、検査規格などにより良否判定する技術です。

（技術・保安部会事務局 徳富 栄一郎）

EIGA Winter Seminar 2017について



ブリュッセルの街並み

組織や職場での人間の行動による関連要因についてです。

EU本部、そしてEIGA本部のあるブリュッセルに、ヨーロッパ各地より高圧ガスメーカーを中心に約200名の参加があり、アジアからは唯一JIMGAが参加しました。

ブリュッセルでは昨年、空港での爆発テロなどがあり、施設等にはもはやその痕跡は見られないものの、市内には武装した兵士が数百メートルおきに警戒にあたっていました。

1月25日～26日にベルギーのブリュッセルにて、EIGA（European Industrial Gases Association）によるWinter Seminar 2017が、伝統あるホテルのル・プラザ・ブリュッセル（Hotel Le Plaza Brussels）にて開催されました。セミナーのテーマは「ヒューマン・ファクター」すなわち、労働安全における



セミナーパンフレットより



セミナー会場の様子

今回のセミナーの目的は、人的要因による災害の分析方法や従業員への展開方法などを学んだ経営者や従業員自身が会社に戻り、信念を持って労働安全を実現するための動機づけです。

セミナーはEIGAのフィリップ・ブリッケル氏の挨拶が始まり、Praxair、Messer、Air Liquide、ExxonMobil、The Linde Group、Air Products、GE Oil and Gasなどの各社から7つのセッションで、実績のあるツールやテクニックについて発表されました。

リーダーの行動が安全な作業、価値観やビジョンおよび態度に直接影響を与え、安全文化を生み出すという



ブリュッセルにある小便小僧はとっても小さい小僧です。

ことでした。次回のセミナーのテーマは、トランスポート・セーフティ（輸送安全）です。

（環境・安全部会 事務局 大沼 倫晃）